

# 労働災害ゼロの職場を目指して 安全パトロール

～ 森林整備事業【活用型】 間戸国有林72林班内 安全パトロールを実施 ～

7月9日、臼杵市野津町に所在する間戸国有林72林班内で実行中の森林整備事業【活用型】(受注者:大分愛林(有)代表取締役 川野豊晴氏)の安全パトロールを坂本大分森林管理署長、植薄森林技術指導官、堀田首席森林官3名で実施しました。

当日は、受注者の川野代表取締役のほか4名の方が作業中で労働災害ゼロの職場を目指し、安全意識の向上、危険因子の摘みとりに取り組むことを確認しました。

はじめに、坂本署長から①伐倒作業に係る安全確保、②足下の確保と周囲確認、③作業者間の連絡・合図の徹底等、基本的事項等の遵守について発注者の立場から周知。また、平成30年度請負重大災害の被災の作業区分から、集材(2件)、伐倒(4件)、造材(1件)合計7件の概要を説明し類似災害の防止に努めていただくよう周知しました。

堀田首席森林官(監督職員)から、ダニ刺咬防止対策について、作業前後の服装のチェック、刺された場合は速やかに受診するように説明しました。

川野代表取締役からは、日常の作業で取り組んでいる連絡・合図の取組状況、伐倒作業に使用するクサビの使用状況、朝のミーティングや危険予知活動の実施などについて説明を受けました。

なお、4月から就業している平成30年度「おおいた林業アカデミー」卒業生2名の姿もあり、川野代表取締役に話を聞いたところ、現在、主に伐倒、造材を行っており、伐倒作業では実践を重ねていく中で思った方向へ伐倒できるようになってきたと話し、日々変化する現場環境に対応できる技術を早く身につけてもらいたいと期待を寄せていました。



坂本 大分森林管理署長(正面) 安全指導



安全パトロール



安全パトロール